

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

12月号

発行 平成24年12月26日



東日本大震災関連



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の11月の農林畜産物の放射性物質モニタリング調査結果をお知らせします。

調査した29品目61検体のうち、23品目55検体は、検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があったものは、6品目(あけび、秋そば、シュンギク、ギンナン、菌床しいたけ(施設)、原木しいたけ(施設))の6検体ありましたが、基準値を超えたものではありませんでした。品目としては、畜産物や原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。12月10日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、クリ、たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、11月末の検査点数、447,161点のうち99.7%の445,869点が測定機器の検出限界値以下、1,291点が基準値内で検出が確認され、1点が基準値を超過しましたが、基準値を超過した米は、管理され、市場には出回っておりません。調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(11月)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
23品目 55検体	6品目 6検体	なし	29品目 61検体

) 5 検体には一部の検体が基準値内で検出された品目の検体数を含む。

(表2) 1点も放射性物質が検出されなかった品目と検体数

・キャベツ 2	・ネギ 3	・豚肉 1
・ハクサイ 4	・トマト(施設) 2	・牛肉 8
・ダイコン 1	・コマツナ(施設) 1	・原乳 4
・ホウレンソウ 2	・葉ネギ(施設) 1	
・チンゲンサイ 2	・パプリカ(施設) 1	
・ブロッコリー 2	・ミツバ(施設) 1	
・サトイモ 1	・ミニトマト(施設) 1	
・フェイジョア 1	・茎ブロッコリー 1	
・コマツナ 1	・葉タマネギ 1	
・菌床なめこ(施設) 2	・菌床うすひらたけ(施設) 1	



「ふくしま森林再生 加速化事業」実演会を 開催しました!

11月27日(火)、いわき市川前町のふくしま森林再生加速化事業地内で、「落葉・小枝破碎・表土掻き出し機」の実演会を開催しました。

本事業は、通常の森林施業と併せて除染として有効と考えられている作業を実施した場合の空間線量の低下等を実証するもので、当所管内ではいわき市川前町上桶売地内の森林15.0haを選定し、実施しています。施業内容は、針葉樹のスギの間伐10.56haと併せて間伐木の枝葉の回収・除去、広葉樹林の更新伐(70%以上の伐採)4.44haと併せて落ち葉等の回収・除去を行うものです。

実演会は、森林除染業務用に開発された「落葉・小枝破碎・表土掻き出し機」の性能について実施者の意見を収集し、効率の良い落ち葉等の回収方法について検討する目的で開催しました。

機械は、簡単操作、シンプルな構造・楽なメンテナンスをコンセプトに開発され、刈払機の先端を改良した粉碎部で粉碎された落ち葉等をエンジンプロアの吸引パイプ(径100mm)を經由して集塵装置内の袋に回収するものとなっており、軽自動車へ登載するため小型軽量化(300kg)が図られています。パイプをのばせる距離は、25mであり、粉碎された落ち葉等は、集塵装置により除去されます。

実演会の実施者からは、「腐葉土部の除去作業では、吸引時にパイプが一時重くなる」、「肩掛け式ではなく背負い式にならないか」などの意見が寄せられました。



(軽自動車登載の集塵装置)



(吸引先端の破碎部)



(落葉等の回収実演)

一般情報



大日本農会農事功績者表彰

公益社団法人大日本農会は、桂宮宜仁親王（かつらのみや よしひとしんのう）殿下を総裁にいただく全国的な農業団体です。

農事功績者表彰は、長年にわたり、たゆまぬ努力と創意工夫により、農業における新技術や経営改善に挑戦し、優れた農業経営を実践するとともに、地域のリーダーとして、技術の導入・普及、産地育成や青年農業者の育成等に大きな貢献をされてきた農業者の方々を桂宮殿下の御名をもって表彰を行う事業で、今年で96回を数えます。今回は、11月21日（水）に、いわき市錦町で長年にわたりトマト栽培を行っている助川正克さんが農事功績者として緑白綬有功章を授与されました。

助川さんは、いわき市における施設トマト栽培の先駆者として徹底した土づくりによる減農薬・減化学肥料栽培、地域ブランド「親バカトマト」の確立・普及並びにモデル経営として後継者育成、更には東日本大震災からの復興のため風評被害の払拭に尽力された功績が認められ表彰の栄誉を賜りました。

助川さんは、「今後も後継者やJAトマト部会のみならず技術研鑽を重ね、「親バカトマト」ブランドの更なる定着・普及を図っていきたい。」と力強く語ってくれました。今後のますますのご活躍が期待されます。



(助川正克さんご夫妻)



日本林業技士会 福島県支部第8回 通常総会が開催 されました！

11月26日(月)、いわき市で日本林業技士会福島県支部第8回通常総会が開催されました。林業技士は、日本森林技術協会が実施する森林・林業に関する専門的技術者の資格認定・登録制度で、福島県支部には県内の林業事業体等に所属している78名の林業技士が加入しています。

総会は、始めに平子作磨支部長から「福島県の森林は放射性物質に汚染されているが、森林除染を含めて間伐をすすめよう。」と挨拶の後、議事に入り、平成24年度事業計画や収支予算等が原案どおり可決されました。続いて、来賓の小林洋司日本林業技士会長、安室正彦磐城森林管理署長及び福島県農林水産部長が祝辞を述べました。

総会終了後、独立行政法人放射線医学総合研究所吉田聡氏による森林環境セミナー「森林における放射能の影響」が行われました。放射線の基礎から福島第一原発事故に伴う放射性物質による森林の汚染状況、チェルノブイリ事故の現状を含め、とても分かりやすい講演でした。出席者の皆さんは、今回の講演を参考に放射能に対する知識を深め森林整備に繋げていけることと思います。



(吉田聡氏による森林環境セミナー)



高品質梨生産を目指した 梨の剪定指導部会の開催

今年の梨は、甘味が強くしっかりした肉質が特徴の美味しい果実でした。

一方、生産状況は厳しく、開花期の天候不良による結実不良や夏の猛暑と乾燥による小玉傾向に加え、黒星病やカメムシ類が多発生し減収となりました。特に、夏の猛暑と乾燥による樹体への影響は、大きく、枝や樹が枯れる被害も見られました。

これらを踏まえ、11月26日(月)から12月2日(日)にかけ、JAいわき市梨部会では次年度の安定生産に向け8会場で梨の剪定指導会を開催しました。講師には農業振興普及部の担当者が当たり、病害虫被害を抑え、糖度が高く美味しい梨を毎年作るため、樹勢の回復・安定化と花芽着生の向上の技術を指導しました。

指導会には計98名が参加し、高品質の梨作りに向け、「糖度を高くするには?」「来年は黒星病抑えるぞ!」など意欲的な質問や決意が出されていました。

いわきでは、県内でいち早く剪定作業を開始し、甘くて多汁なサンシャインいわき梨を来年も皆様へお届けします。



(選果風景)



(マルトでの販売)



田んぼの学校「収穫祭」

「田んぼの学校」とは、農林事務所が実施する『「ふくしまの農育」推進事業』の一環として、一年間を通して主に米づくりに関わる仕事を体験する環境教育事業で、今年度はいわき市立赤井小学校と連携し主に5年生児童65名を対象に実施しています。

11月27日(火)、今年度第7回目の活動として収穫祭を行いました。

始めに校長先生、地元協力者の根本さん、農林事務所職員から、それぞれあいさつがあり、収穫祭を開始しました。

続いて児童代表2名が、開校式以降実施してきた活動についてそれぞれ感想を発表しました。児童たちは、「田植え」「生き物調査」「分けつ調査」「かかしづくり」「稲刈り」「脱穀」と半年以上実施してきた活動を振り返り、この中で、米づくりの大変さを実感し、食べ物を大切に必要性を強く感じ、収穫に感謝している様子でした。

引き続き農林事務所の職員も一緒になり、9班に分かれて児童たちの手作りカレーライスと、楽しく会食しました。カレーはとてもよいできばえで、新米のおいしさもあり、何杯もお代わりする児童の姿が見られました。

最後に、各班代表の9名の児童が、本日の感想を述べて収穫祭を閉会しました。



(収穫祭の様子)



(カレーに大喜びの児童たち)



平成24年度夏秋ねぎ栽培技術向上セミナーを開催しました！！

いわき地方は、秋冬ねぎを中心とした県内一の生産地となっていますが、近年、栽培面積の減少や単位収量の減少等の問題が生じています。

11月27日(火)、ねぎの生産・流通状況を把握するとともに、夏秋ねぎ面積拡大を図ることによって、いわき地方におけるねぎの周年出荷体制を築くことを目的として「夏秋ねぎ栽培技術向上セミナー」をいわき農林事務所が開催しました。

講師として、株式会社平果の岡部守利さん、JA全農福島郡山営業所園芸センターの結城誠さん、農業総合センター生産環境部環境・作物栄養科の根本知明さんを招き、それぞれから、「ねぎの流通動向と夏秋ねぎの今後のニーズ」、「県内の夏秋ねぎの取り組み」、「夏秋ねぎ1月播き栽培のポイント」について講演を頂きました。また、いわき農林事務所からも、市内の夏秋ねぎの導入事例を、生産者の園辺良元さんの意見を交えて紹介しました。

セミナーには70名近くが集まり、単収向上が期待できる「1月播き栽培」について、特に多くの質問や意見があり、関心の高さが伺われました。

本セミナーを契機として、新たに夏秋ねぎを栽培される方が増え、ねぎの周年栽培が進められることを願うとともに、今後も夏秋ねぎを推進していきます。



(熱心に聞き入る参加者)



地域産業6次化 ネットワーク 第3回クラスター分科会 を開催しました

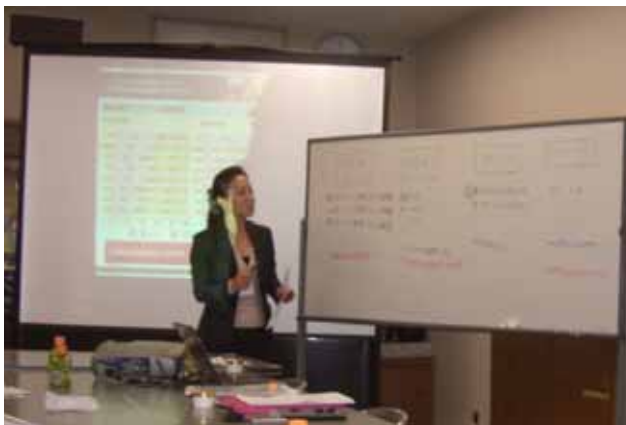
1月28日(水)、いわき地域産業6次化ネットワーク交流会では、サンシャインいわきの農産物を使った特色ある特産物を創出する「クラスター分科会」の第3回目を開催しました。

今回の分科会では、前回の検討結果を基に試作した「日本酒アイス」「椎茸焼酎アイス」「梨・醤油アイス」「ネギ・味噌アイス」の4種類のジェラートを試食し、開発するジェラートを「日本酒アイス」と「梨・醤油アイス」の2種類にまで絞り込みました。

日本酒アイスの原料となる日本酒については、話し合いの結果、福島県が開発した米の新品種「天のつぶ」から醸造された日本酒とその酒粕を優先的に使用することになりました。

また、実際に販売に当たり重要な要素となるパッケージのデザインについても検討し、ノスタルジーのイメージでどこかなつかしい地元の味をイメージしたデザインとすることとなりました。パッケージデザインについても、今後さらに検討を進めることとしています。

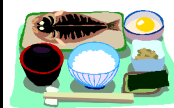
今後、開発を進め、平成25年2月までには試作品を完成させ、首都圏で試食とアンケートを実施する予定です。



(コーディネーターによる意見取りまとめ)



(アイスを試食する参加者)



食彩ふくしま 地産地消推進店の メニューの紹介

地産地消推進日(1月は8日(火))にあわせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
なお、内容は変更する場合がありますのでご了承ください。

(1) 純中国料理 大雅(佐糠町)

地産地消メニュー:

鶏肉とカシューナッツ炒め

若鶏肉の唐揚(カレー粉仕上げ)

説明: 県産の鶏肉を使用。

実施日: 1月7日(月)、9日(水)

(2) 一膳(平字童子町)

地産地消メニュー: さんまの開き

サバ文化干し

説明: または にいわき産サツマイモの天ぷらをサービス。ご飯は天のつぶ(会津産)を使用。

実施日: 1月8日(火)

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>
E - Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp

